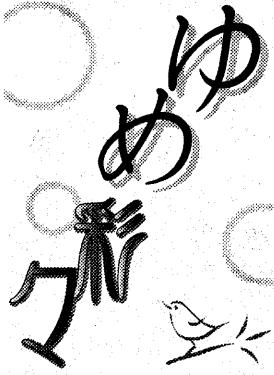


クロマチックアコーディオンプレイヤー かとう かなこさん



「とにかくマイナーイメージが強いし、色も黒が多い。日本でのアコーディオンのイメージを上げたい」。特注で彩色してもらった*愛器、はピンク~オレンジ~黄色のグラデーション



〈53〉

ストアルバム「Le ciel
〜空〜」(2千500円・税込
み)をリリースした。

父がアコーディオン愛好家。
4歳から始め、「練習しないと
怖かった」と笑う。小2で先生
につき、3年に1度のコンクー
ルは小6で小学生の部優勝、中
3でジュニアの部優勝。高校生
〜40歳の一般の部でも優勝。

日本では珍しいクロマチックアコーデ
イオンプレイヤー。クロマチックとは半
音階の意味だが「日本で主流の鍵盤式と
区別するために『ボタン式アコーディオ
ン』の意味で使っています」。

豊中生まれの24歳。3姉妹の真ん中。
高校卒業後、仏へ4年間留学、01年7月
に帰国して以来演奏活動を始め、じわじ
わ頭角を現している。今年1月、ファ

「プレッシャーに負けずでっしんとかっ
たけどコンクールは最終目標じゃない、
通過点だと思えたら楽になりました」。
姉と妹は中学の時に辞めている。「続け
たのは私が一番出たがりだから、かな」
音大進学を考えたが、ピアノが弾けな
い。専門的に学べる学校もない。「co
b aさんはイタリア。ドイツで学んだ人
も知ってる。私はフランスへ行こう」。

いろいろな音があって、人の感情によく似てる

パリの音楽学校へ入学。2年後、仏で始
めたボタン式をもっと学ぶためパリから
列車で5時間かかる田舎のアコーディオン
学校へ。「全寮制で、人口3000人の
うち50人が生徒。私が唯一のアジア人だ
した」。朝から晩まで、いろんな人がい
るんな曲を弾くのが聴こえてくる。「ポ
ピュラー音楽、特にオリジナル曲をや
りたいという方向性が見えてきたんです」
帰国後の初仕事は2カ月間の音楽劇だ
った。01年の秋に教室を主宰。「聴いて
もらわないと始まらない」と、小学校や
病院、公民館などへも弾きに行った。

「長年アコーディオンを弾いてきたけ
れど、全くの基礎からもう一度やらされ
たフランスでの経験、先生が言ってくれ
た『気楽にやればよい』という言葉が私
の財産ですね」

若くて美人。実力は世界レベル。世間
が放っておかないだろう。「いけること
るまで大阪を拠点にしたい。力強い音、
優しい音、アコーディオンにはいろいろ
な音があって、人の感情にとてもよく似
てる。魅力を伝え、私自身が楽しんで演
奏を続けていけたら」

アコーディオンへの情熱を胸にどこま
で羽ばたいてくれるのか楽しみだ。

29日(日)、豊中の桜の庄兵衛ギヤラ
リーでコンサートがある。006(688
52)0270。